

# 国際文化交流特論： 越境する宗教とその可能性)

第7回：

レクサスとオリーブ：  
個人を取り巻く状況

名古屋大学国際言語文化研究科  
鈴木繁夫（教授）



New IS  
350/300h/250



- 切り倒されるオリーブ  
(ウェストバンク, 2013年)

# 対立軸

レクサス	オリーブ
遠近感不要	地域の個別性
交換可能	かけがえのなさ
コスモポリタン	帰属意識
経済的自尊心	社会的自尊心

# 黄金の拘束服

民営

国有産業

公益事業

規制緩和

関税

個人投資奨励

競争促進

スタートラインの平等

貧富の階層化

# レクサス・グローバリズム： 利点と欠点

利点	欠点
国家間戦争の減少	所得格差の拡大
汚職の減少	私的情実への嫌悪
情報の自由流通	一律化
民主化の進展	欲望の肥大

# 黄金の拘束服により失われるもの

(1)「協力」に基づく人間的な触れ合い

(2)損得勘定では割り切れない安心や安全



- 自分への問い

「いま私が、この集団に属していることは効率的なことなのか？」

- 集団からの問い

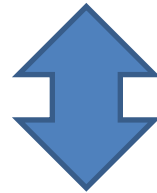
「お前は評価されるに値する人間か？」

# 二種類の問い

- 根源的な問い

- どこから来て、何者で、どこへ行くのか

- 超越的な視点をもつ人間 homo religiosus



- レクサスの問い

- 効率的で、評価に値するか

- 自立した強い個人像 homo mentis





# 第三の道：レクサスから逃れる

- 数字信仰からQOL社会へ
  - 経済成長数から＜中身＞quality of lifeへ
  - 医学の侵襲性からホスピスへ
- 多様性の肯定
  - ひとりひとりが自分自身の「生きる意味」の創造者
  - 一点豪華主義の人間

# 根源的問い: 内的成長へ

- <生きる意味>を成長させる
  - 人がわくわくすることを喜び、人が苦悩することを受けとめる
- (1)わくわくすること
  - × 他者の喜びを奪うことで自分も安心するという戦略
- (2)苦悩
  - 自分で自分の人生を切りひらいていく意識
  - × 「苦しいこと」は手軽に除去